

第7期
(2024年度)



一生みんなと働き、
社員と社員の家族を幸せにする

経営計画書 (方針編)

『切切偲偲』

(せっせっし)

仲間同士が高め合い、励まし合い、磨き合うこと

坂創設備工業株式会社

自 2024年8月1日

至 2025年7月31日

創 業 の 精 神

私は 20 代前半まで学生でもなく定職に就かずふらふら生活していました。

夜間の建築設備専門学校を卒業し、とりあえず 22 歳で設備会社に就職しました。入社して仕事を覚えてくると、この仕事はめちゃくちゃやりがいのある仕事だと思うようになり仕事に生きがいを感じるようになりました。9 年後に同じ職種の会社に声をかけてもらい、そこでも会社を盛り上げる意気込みで働き始めました。

その会社の社長に成果を認められ役員にまで就かせてもらいました。

しかしある時、社員が不祥事を起こし、社長との考え方の違い、処罰の問題に相違があり、この先社長にはついていけないと考え、退職し創業する決断をしました。個人事業主で 1 人から始め、翌年、法人設立し、現在 10 名の仲間と働いています。

社員さんその家族そして携わってくれるすべての人たちが幸せになれる会社をつくりたいと思っています。

そのためには自分が社長としての姿勢、在り方をどうみせていけばよいか模索中の毎日です。

損得ではなく、喜ばれて感謝される 100 年続く企業を目指していきます。

経営理念

(全社員で共有するもの)

『一生みんなと働き、 社員と社員の家族を幸せにする。』

(1)一生あなたと家族を守る。

(会社が全従業員に約束します。)

(2)よい習慣を身につける。

(人間の成功は知識の多さや努力の積み重ねによるものではない。

何が人を成功に導くかという、それは「習慣」です。良い習慣は才能を超える。)

(3)常に考え行動する。

(人様にどうしたら喜ばれ、感謝されるか考動する。一人ひとりの創造性の総和が利益)

人が幸せになるために会社があります。人が幸せになるとは、お金を稼ぐことでも、名誉を得ることでもありません。人としての「思いやり」「熱意ある誠実さ」「素直さ」「感謝する心」「心の美しさ」などの資質を高めることです。会社は人間性を高める場所です。人間性は苦勞して初めて磨かれていくものです。よって苦勞することを我々は生き甲斐とする。

○ 会社は人が幸せになるためにあるが、幸せになるためには、自分以外の多くの人を幸せにすること。しかし、人間は習慣によって行動しているから、人のためより自分が先になる。習慣を変えるためには、経営理念が必要。具体的には、行動を変えないと習慣は変わらない。

経営方針

人を大切にする経営をする

経営方針とは、社長の姿勢である
最上の教育は経営者の方針

1. 経営の基本方針

- (1) 社員と家族を守る。さらに地域の環境をも守る。
- (2) 会社を取りまく、全ての人を幸せにする経営をする。
- (3) 社員1人1人が使命感、経営理念を心から共感し、人様のために仕事をして社員、お客様、社会から喜ばれ、感謝され、働きがいを持てる会社にする。
- (4) 働いている社員の姿が最高の商品となるように、お互いを支え合い尊敬し合い、明るい、元気な社風とする
ことで人間性を磨く。
- (5) 社長は社員第一主義、社員はお客様第一主義とする。
- (6) 新サービスを時代の変化に合わせて開発し続ける。
- (7) 経営の判断基準は、儲かるかどうかではなく、正しいかどうか、世の中のためになるか、社員が楽しく誇りを
持てる仕事かどうかとする。
- (8) より多くの納税をする会社にする。日本国で一番困っているのは雇用より税収不足と少子化。知恵と努力で高収益の会社にし、法人税等と高給与による所得税で国家に貢献する。

2. 人を大切にする経営

わが社が大切にする順序

- (1) 社員とその家族
- (2) お客様の社員とその家族
- (3) 地域社会と社会的弱者

3. 社員と家族が幸せになる経営

- (1) 豊かな生活を送れる会社にする。年1度は家族旅行ができる高給与を実現する。貯金のある生活を実現
する。
- (2) 子供の多い社員を優遇する。子は国の宝。安心して子を産み育てられる高給与と環境を提供する。
- (3) 家族のために社員が早く帰れる会社にする。全社員が19:00に帰る。家族重視、夕食を子供と一緒に食
べられるようにする。
- (4) 終身雇用制とする。会社は一生社員と家族を守る。

4. 尊徳の経営

自分の会社以外の多くの人のために役に立つ。儲かるか儲からないかという「損得の経営」ではなく人様に喜ばれるか、感謝されるかという「尊徳の経営」をする。

儲かる会社より社員が幸せを感じられる会社、世の中の役に立つ会社にする。ただし、儲けなくして社員の幸せ、社会貢献はできない。利益中心の「損得の経営」ではなく、利益を出しながら人を大切にすることを第一に考えるのが「尊徳の経営」である。

社長は徳を積み社員から尊敬されるように努力をする。会社がお客様から尊敬されれば、他に低価格のライバルが出現しても取引は続く。

- (1) 明るく、笑顔の挨拶を通じて人様に元気になってもらいたい。
- (2) 掃除を通じて社員と日本人の心を美しくしたい。
- (3) 高齢者・障がい者雇用に取り組み、一人でも多くの人に働く喜び、人の役に立つ喜びを感じてもらう。
- (4) 社員の人間性を高め、立派な日本人を育てる。良い社風を作る。

5. 環境整備

- (1) 環境整備とは、仕事をする環境を整え、備えること。
- (2) 環境整備こそ、すべての活動の原点であり、人間性を高める一番の早道である。
- (3) 良い習慣を身につける。
- (4) 時を守り、場を浄め、礼を正す。
- (5) 意識を高め、工夫する力、考える力を伸ばす。
- (6) 環境整備は訓練(トレーニング)である。訓練により、習慣として身につけ、人間性が高まる。

6. お客様第一主義

- (1) 全社員でお客様に喜ばれ、お客様から感謝される仕事をするを自分の喜びとすること。
仕事のやり方は、常にもっとよい方法はないか考え工夫し、改善していく。仕事の準備をしっかりと、お客様に喜んでもらえるような提案や情報を提供する。
- (2) お客様の立場に立ち、思考のスタート地点をお客様に置く。
- (3) ニーズの先読みをし、期待の一步先をいくサービス、お客様に感動・感謝される仕事をする。
- (4) お客様の要求に合わせて、コロコロ変わることを誇りとする。

7. 重点主義

- (1) 重点主義とは弱者の戦略、すなわち差別化することである。現場主義に徹し、商品と客層は絞り込むが、地域は絞り込まない。
- (2) 自社の強みと弱みを徹底的に分析比較し、強みを掘り下げて磨き、同業者のマネしづらいサービスを提案していく。
- (3) 価値観の共有のために、売上のための社員教育ではなく、人間性を高める社員教育をする。
- (4) 独自性のある商品・サービスをお客様の視点で開発し、深く掘り下げ、日本一のサービス・技術を提供する。
- (5) 部分最適よりも、全体最適を追求する。個々の能率より全体の効率を考える。人間の欠点は、物事の一面にとらわれ、大局的な判断ができないこと。幹部は常に全体最適を考え行動する。幹部の必須条件である。
- (6) 凡事徹底。当たり前のことを当たり前にして、人に差をつける。言っている事とやっている事を少しでも多く一致させる。凡事徹底の基本は、「笑顔」と「掃除」と「挨拶」。